

亀岡まるごと
ガーデン・ミュージアム構想
【概要版】



亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想とは

私たちのまち亀岡は、保津川やその後背の里山などの豊かな自然をはじめ、アユモドキに代表される生物の多様性、雲海や桜石などの自然資源、また多くの社寺や城下町、伝統行事や芸能などの歴史・文化に恵まれています。

亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想は、亀岡市の自然や歴史、産業の特性、これまでのまちづくり、地域づくりの成果を活かし、市の名所づくり、花や緑による景観づくり、生物保全活動等を融合させ、暮らしの豊かさや快適性を創造し、来訪者への温かいおもてなしの心を提示するまち・亀岡をまるごとガーデン・ミュージアム（庭園博物館）として位置付けるものです。亀岡盆地に位置する亀岡市は、山並みに囲まれ一望して全体が目に入るひとまとまりの世界があります。

亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想においては、市域全体を「小盆地宇宙[※]（図1）」と捉え、固有の自然環境や歴史的・文化的な特徴をつなげること、市全体を回遊式庭園のように水やみどりで結ぶこと、市民や来訪者が多様な関わりをもつ仕掛けを作りだすことを目指していきます。本構想では、市内全域を都市部（主に市街化区域及びその周辺）、農村部（都市部を除く地域）に分けて、構想を策定しました。

※「小盆地宇宙」は、独自の歴史を持ち、独自の文化伝統を持ちやすく、生活様式、生産活動の様式にもそれぞれの環境条件に対応したものが含まれる。出典：米山俊直「小盆地宇宙と日本文化」

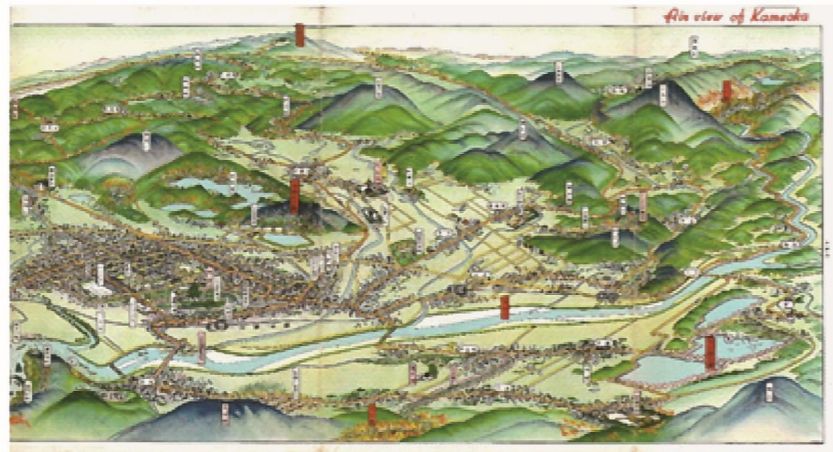


図1：小盆地宇宙・亀岡のイメージ
出典：亀岡市観光案内パンフレット「亀岡」掲載の鳥瞰図

構想のテーマ：小盆地宇宙で織りなす、豊かな自然と文化のつながりづくり

構想の基本方針

- ① 自然に関わる人々の知恵と技術を次世代に継承する
- ② 美しい景観資源を市民と共に発見し、輝かせる
- ③ 食・暮らしに関わる地域資源を広げる
- ④ 澄んだ水を守る
- ⑤ 資源を結ぶミュージアム回廊を構築する



亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想の実現に向けて

本構想の実現に向けて、都市部・農村部のそれぞれに重点地域を設け、具体的な整備手法について検討しました。

都市部～亀岡駅北地区および周辺地域～

【目標】

- ・「ハレ」の日（スタジアムでの試合・イベントの開催）と「ケ」の日（日常）の二つの顔で街の賑わいに貢献する
- ・70 m幅の駅前広場を「街の顔」として整備する
- ・ガーデン・フィールドミュージアムの玄関口とする
- ・グリーンインフラストラクチャーを通して持続可能な社会へ貢献する



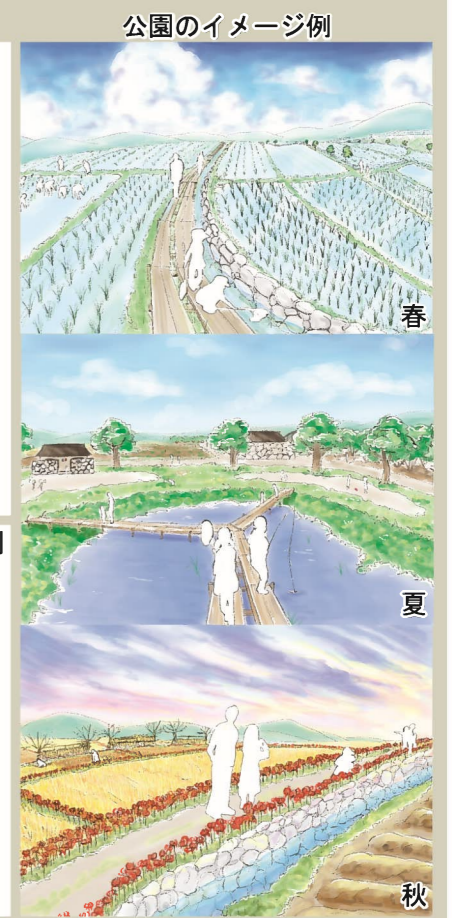
農村部～京都・亀岡保津川公園～

【整備・保全のための基本的考え方】

1. アユモドキをはじめこの地に特有の動植物、生態系を保全し、水系と陸地の連続性、ネットワークを確保する
2. 水田を中心とした原風景（昭和30年頃の風景）を保全、再生し、子供たちがいろいろな魚と遊べる場、風景を育んでいく
3. 風土にあった植物や農作物、果樹等を育て、五感で楽しむ場とする
4. 1～3と関わる営農活動の継続、地域活性化につながる様々な施策、事業と連携する
5. この地の自然や文化に関わる調査・研究、普及・啓発、交流拠点となる施設、仕組みをつくる



昭和の保津川周辺の様子
保津周辺には、水田や石組みの水路や畦畔木があった原風景や、広い田園があって後ろに山があるパノラマの風景が、受け継がれています。



亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想（都市部編）

都市部では、「盆地」地形とそこから派生する様々な自然・文化資源の源となる「水」に焦点をあて、「観光振興エリア」「良好な住環境エリア」及び「軸となる道」を抽出しました（図2）。今後は、未来を向きながらも故郷の歴史を感じることができる「庭園都市」を目指していきます。

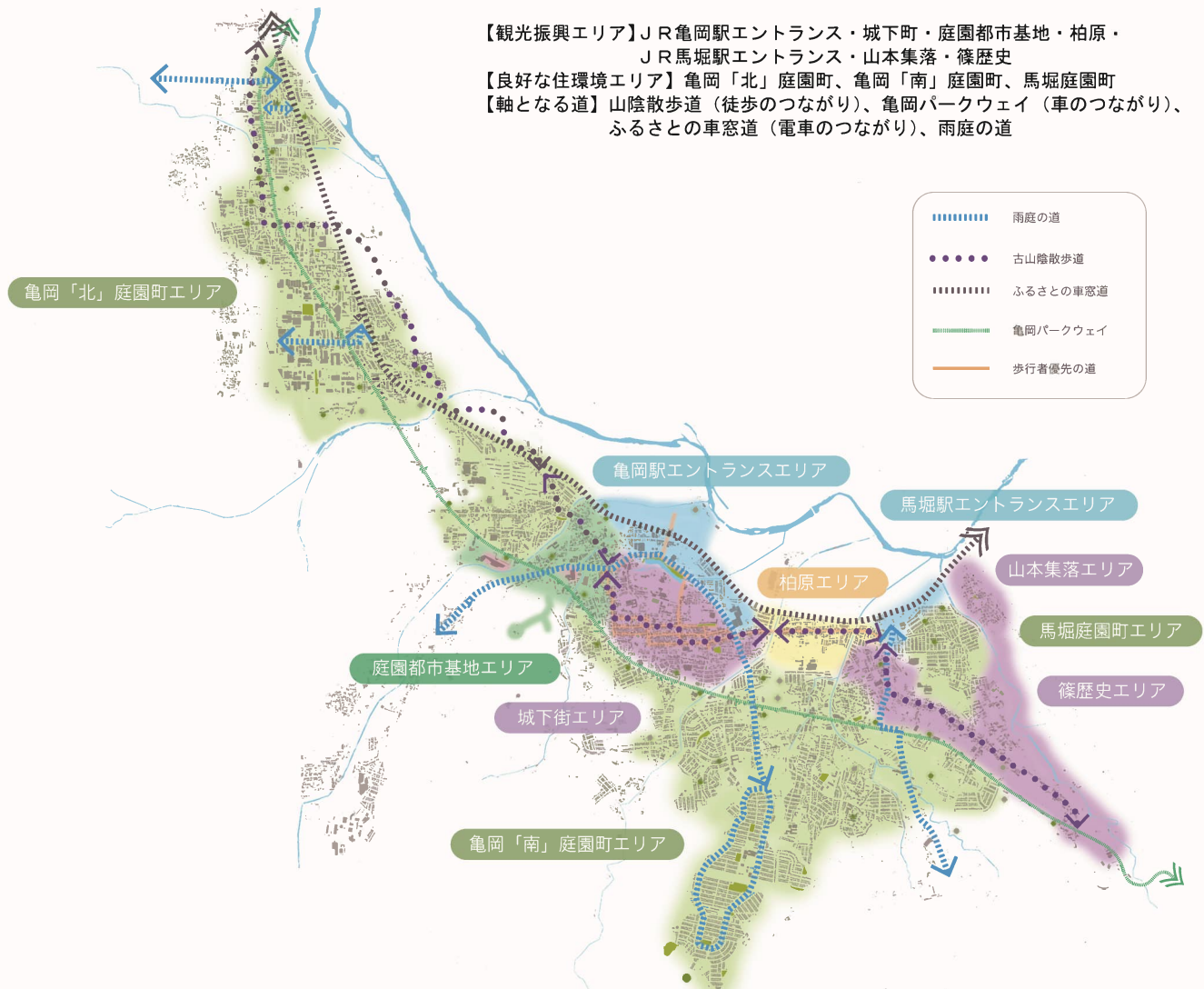


図2：亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想（都市部編）のイメージ図

構想を実現するための具体的な手法（都市部編）



亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想（農村部編）

農村部では、流域区分や地域の歴史・文化資源を踏まえ、コアとなる 11 地域を抽出しました（図3）。今後は、現在の主要道に過去の古道も含め、それぞれのコア同士の連結を図っていきます。

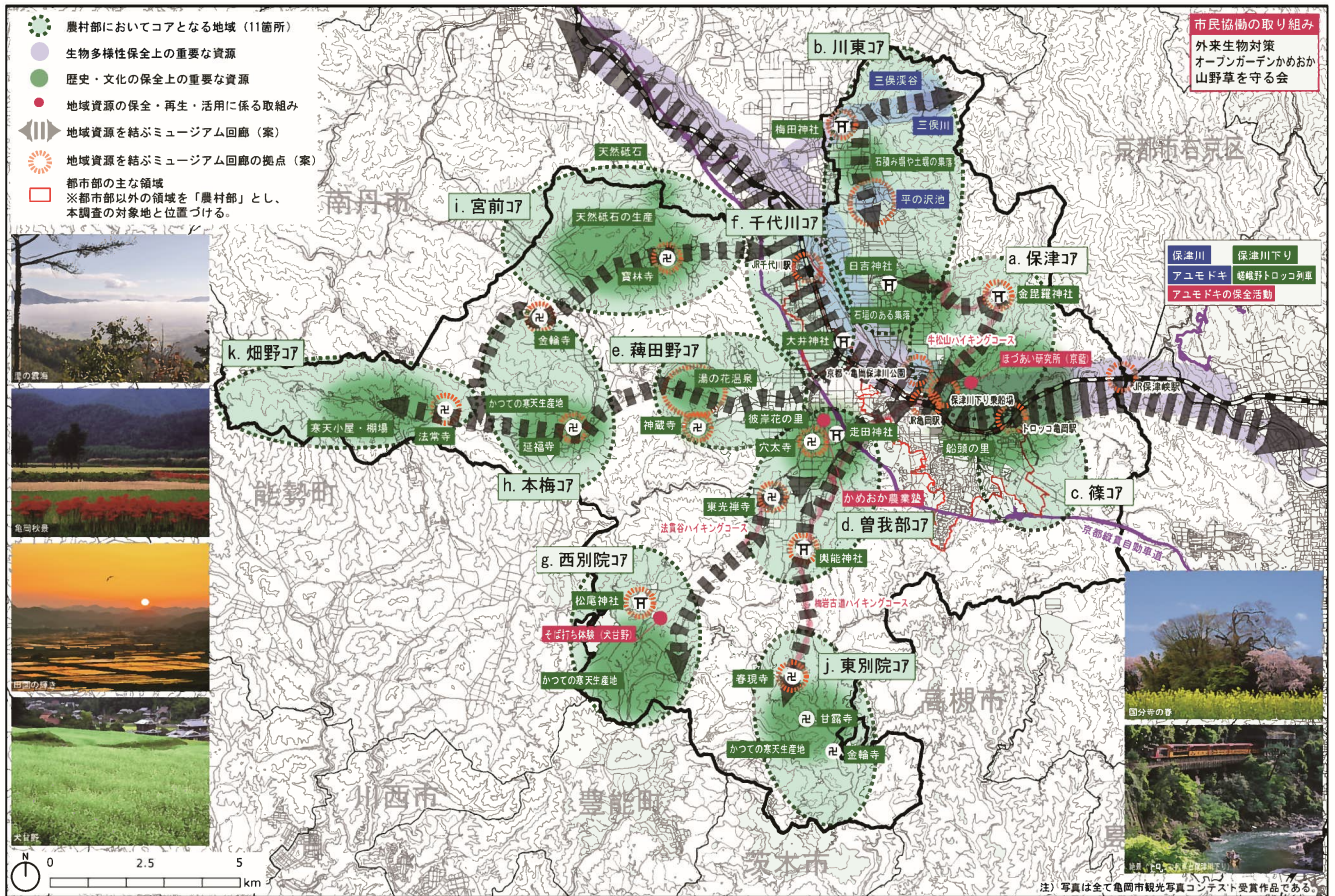


図3：亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想（農村部編）のイメージ図

構想を実現するための具体的な手法（農村部編）

市民協働による「いいいの場」の創出



花とみどりに親しむイベントの開催

